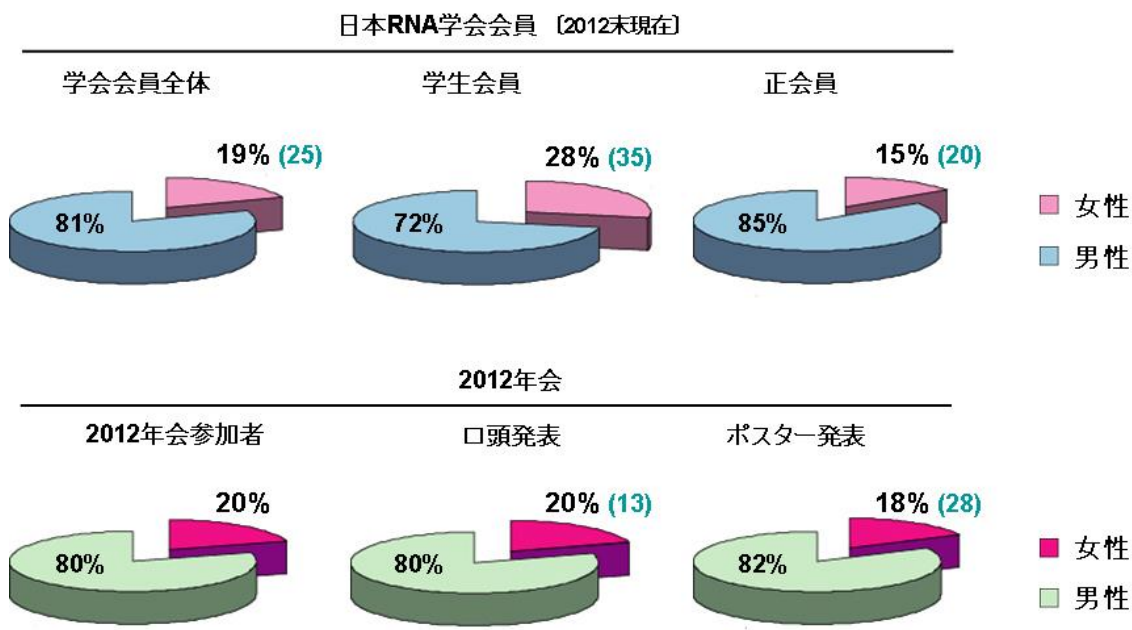


～ 日本 RNA 学会の現状 ～

とはいうものの、日本 RNA 学会における現状把握も必要ということで、2012 年度の会員、および大会参加者や発表者の女性の割合を算出しました。

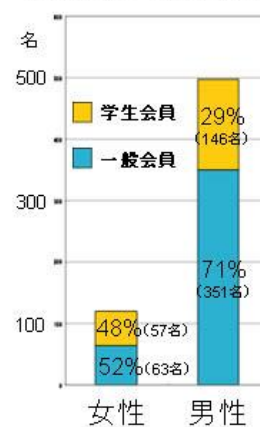


%は女性の割合。() は日本分子生物学会における女性の割合

会員全体の約 2 割が女性会員で、これは分子生物学会と比較すると（会員が 600 名ほどの RNA 学会と 15,000 名以上の分子生物学会を単純に比較することはできませんが）全体では 6%ほど女性の割合は低く、特に学生会員の割合が低いといえます。年会参加者における女性の割合や発表者における女性の割合は、全体の会員の比とほぼ同じであることから、男女とも一定の割合で年会に参加しているといえます。（上図）

また、女性会員の中での（学生会員：正会員）の割合は（1：1.1）で（右図）、この比は分子生物学会とほとんど同じであり、研究の分野に学生が残らない、あるいは一定の割合で女性の一般会員は辞めてしまうという傾向はどちらも同じであるといえます。女性は、出産や育児、介護など、ライフイベントに大きく左右されやすく、研究を続けることを途中で断念することが男性よりはるかに多いためと考えられます。男女共同参画を単純に女性の割合で論じるべきではありませんが、女性が男性とは違った視点から意見を発信していくためには、「数」も必要であることは言うまでもありません。女性の方がより多く途中で研究をあきらめて、結果的に女性の割合が少ないとすれば、それは残念なことです。

学生会員と一般会員の割合



（男女共同参画担当幹事：宮川さとみ）